

答 辞

頬に伝わる風が和らぎ、春の訪れを感じる季節となりました。本日は、御多用にもかかわらず御来賓の皆様より、お祝いのお言葉をいただき深く感謝申し上げます。また、教職員の皆様をはじめ、多くの皆様のご臨席を賜りましたこと、卒業生を代表して心より御礼申し上げます。

振り返れば、私たちの大学生活は、当たり前ではない日々の連続でした。4年前の4月、私たちは入学式を迎えることなく、大学生活を始めました。世界が未曾有の危機に直面し、先の見えない不安の中で迎えた新生活。ガイダンス前日まで、まだ顔も見たことのない同級生たちと、どんな服装で行くべきか迷っていたことを今でも覚えています。始まったばかりの頃は、右も左も分からずに戸惑うことも多くあった大学生活でしたが、多くの出会いに恵まれ、実りの多い日々を過ごすことができました。

私が所属する地域社会システム学科では、知識だけでなく、社会課題を見出し、解決していくための実践的な学習の機会が多くありました。大学での学びは、簡単なものではありませんでしたが、新しい知識を得るたびに世界が広がるようで、楽しかったことをよく覚えています。

学業以外にも、学生団体やサークルなどの課外活動にも励んできました。目まぐるしく過ごした日々も、今となってはかけがえのない思い出です。学生生活の中で出会い、悩みや達成感を分かち合った友人たちは、私にとって生涯の財産だと強く思います。また、課外活動の中では、多くの地域の方々に支えていただきました。何かに挑戦したいと思ったときに応援してくれる人がいるという経験は、今でも新たな挑戦の際の大きな自信となっています。

私のこれまでの人生は、決して順風満帆ではありませんでした。迷ったことも、立ち止まったことも、逃げ出したくなったこともあります。しかし環境に恵まれ、人との出会いに恵まれ、今、この場に立つことができます。卒業の時を迎え、私は「山梨大学に来てよかった」と心から思っています。

4月から私たちは、それぞれの夢に向かって歩いていくこととなります。社会に出てから、これまで経験したことのない課題に直面することもあるでしょう。山梨大学での経験は、そうした困難に立ち向かう力を与えてくれました。大学での学びを糧に、地域社会に、そして世界に飛躍していけるよう、たゆまぬ努力と挑戦を続けて参ります。

最後になりますが、未熟な私たちにご指導、ご支援くださった諸先生方、関係者の皆様、支え合ってきた友人たち、そしてどんな時も最大の味方として支えてくれた家族に心より感謝いたします。山梨大学の更なるご発展と大学関係者の皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和7年3月19日
山梨大学 卒業生代表
生命環境学部 地域社会システム学科
功刀 なつ